



教材・支援機器活用実践事例

【グループでの話し合いを可能かつ円滑にするための機器の活用】

	実施年度	平成30年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	聞く・話す
	授業における教師のねらい	・話や会話の内容を理解できるようにする。
	授業における子どもの目標	・話の内容を聞き取り、正確に理解することで、積極的に活動に参加したり、自らコミュニケーションを図ろうとしたりする態度や意識を高める。
子どもについて	学級・学校・学年	小学部3年・6年（補聴器） 幼稚部4歳（人工内耳） （『Roger（ロジャー）受信機マイリンク』装用）
	対象の障がい	聴覚障がい
	授業の形態	一斉・集団
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	・聴覚に障がいがあるが、一対一での会話ができる幼児児童でも、話し手が頻繁に代わる話し合い活動や給食の時間における団らんの際には、「聞こえない」状態となる。また、自由に発言する状況においては、聴覚障がいのある幼児児童にとっては聞き取りにくい状況が発生しやすい場面でもある。そのため話の内容を理解できず活動に参加できなかったり、そもそも聞こえない状況により会話に参加しようとしなかったり、また何を話しているのか分からずに不安な状態になりやすい。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>【話し合い活動】</p>  <p>【給食】</p>  <p>ワイヤレス補聴援助システム『Roger（ロジャー）セレクト』</p> <p>普段の授業では、話し手の声を、送信機である『Roger（ロジャー）インスパイロ』のマイクロホンから、受信機である『Roger（ロジャー）マイリンク』へ電波を飛ばし、直接的に補聴することで、話を聞き取りやすくしている。この『ロジャーセレクト』をテーブル等の中心に置くと、雑音があっても話し手を自動的に選択して話者の声を聞き手に伝える。話し手が変わる状況下でも、その切り替えがスムーズというメリットもある。</p>
	活用のねらい	・話し合い活動や給食の場面など話し手が頻繁に代わる状況下においても、である『Roger（ロジャー）セレクト』の活用により、会話を聞き取りやすくする。
授業における支援・教材の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・『ロジャーセレクト』の有用性について、児童からの使用した感想や補聴効果を聞き取り、使用目的や使用方法について職員で共通理解を図った。 ・使用方法等について、販売店や製造元のフォナックジャパンの方から研修を受け、適切な使用ができるようにした。 	
子どもの変容や評価	小学部の合同自立活動での話し合いや給食の場面で使用すると、直接話しかけられていない場面であっても、『ロジャーセレクト』により情報が入り、会話が聞きやすいという反応が児童たちから聞かれた。	

